

ブルッフ / スコットランド幻想曲 Op.46

マックス・ブルッフ（1838-1920）は、ブラームスより 5 歳年下のドイツの作曲家。「スコットランド協奏曲」は、「3 番目のヴァイオリン協奏曲」といわれる彼の代表作の一つである。曲は、ブルッフがベルリンで合唱指揮者をしていた 1880 年に完成され、初演は翌年、彼が指揮者をつとめるイギリスのリヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団とヨーゼフ・ヨアヒムの独奏で行われた。作曲上の助言を与えてくれたのはヨアヒムだったが、もともと作曲を依頼したのはスペイン出身のヴァイオリニストで、ブルッフが「ヴァイオリン協奏曲第 1 番」を献呈したパブロ・デ・サラサーテだった。この曲も彼に献呈されている。ブルッフは、スコットランドのワルター・スコットの詩に触発されたという。正式な名称は「スコットランド民謡を自由に用いた幻想曲」であり、民謡もまた着想の源になった。

序 奏 グラーヴェ、変ホ短調：物語の始まりを告げるような、幻想的な序奏。

第 1 楽章 アダージョ・カンタービレ、変ホ長調：のどかで温かな民謡風の調べが、ハープなどを伴って歌われる。

第 2 楽章 アレグロ、変ホ長調：軽快な舞曲ふうの楽章。

第 3 楽章 アンダンテ・ソステヌート、変イ長調：民謡の愛の調べにもとづくといわれる繊細優美な楽章。

第 4 楽章 フィナーレ アレグロ・グエリエーロ、変ホ長調：戦いの歌にもとづくといわれる勇壮な楽章。

遠山 菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成

フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、シンバル、バスドラム、ハープ、弦五部、独奏ヴァイオリン

※スコア上の表記